

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：37117

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00074

研究課題名（和文）シヴァ教神学文献の南インドへの伝承に関する研究

研究課題名（英文）A study of the transmission of the Pratyabhijna works to South India

研究代表者

川尻 洋平（Kawajiri, Yohei）

筑紫女学園大学・文学部・准教授

研究者番号：70712206

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：カシュミールで発達したシヴァ教再認識派の神学体系が、南インドでどのように受容されたのかを明らかにした。南インドで著されたシヴァ教神学文献は多くが未出版であるため、それらの写本を蒐集し、電子テキストを作成した。そして、南インドで著された再認識派文献の注釈の著作背景や特徴を明らかにすることによって、南インドの社会状況や南インドの学匠の間で共有されていた情報を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『反省的考察注』や『アンヴァヤディーピカー』などの従来の研究に利用されていない資料を多く用いた点に意義がある。そして、カシュミールから伝えられた再認識派文献に対して南インドで著された諸注釈に見られる再認識派神学体系の理解を検討し、それらの諸注釈に引用される文献群を網羅的に調査することを通じて、当時の南インドの社会状況や南インドの学匠に共通する知的背景を明らかにするための一資料を提供できた。

研究成果の概要（英文）：The present study examines how the Pratyabhijna works were accepted in South India. Based on three manuscripts of the Vyakhya on Abhinavagupta's Isvarapratyabhijnnavimarsini, I prepared a critical edition of a part of the Vyakhya. In addition, I prepared e-texts of unpublished commentaries on the Pratyabhijna works written in South India: Nathananda's Anvayadipika, two commentaries on Nagananda's Svarupaprakasika and so on. By examining the Vyakhya and the Anvayadipika and so on, I showed the features of the commentaries on the Pratyabhijna works in South India and gathered information shared by South Indian scholars.

研究分野：インド哲学、インド仏教学、シヴァ教

キーワード：再認識派 『主宰神の再認識反省的考察注』 『アンヴァヤディーピカー』 アビナヴァグプタ ナー
ターナンダ カルナータカ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

カシュミールの神学者アビナヴァグプタ (ca. 975-1025) とその弟子クシェーマラージャ (ca. 1000-1050) 以降、三女神パラ、パラ、アパラを崇拝するシヴァ教の一派であるトリカが南インドへ展開するのに伴い、多くのシヴァ教文献が南インドへ伝承された。それらの文献は、南インドにおいて現代に至るまで伝承され、それらに対する註釈文献も数多く著された。その中には、南インドにおいてのみ伝承されているアビナヴァグプタの著作もある。しかし、それらアビナヴァグプタに帰せられていた著作に関して、Sanderson 博士 (オックスフォード大学元教授) が指摘しているように、アビナヴァグプタの真作ではない可能性が高い。一例として『パラートリーシカー』に対する註釈『パラートリーシカーラグヴリッティ』が挙げられる。その根拠は、この註釈が近代以前のカシュミールでは写本の存在だけでなく名称さえも知られておらず、この著作に言及するのは南インドの学匠だけであることなどである。ただし、南インドの学匠マヘーシュヴァラーナダ (ca. 1275-1325) がアビナヴァグプタの著作とみなしているように、南インドではアビナヴァグプタの著作として考えられていたことも事実である。またカシュミールにおいてクシェーマラージャ作とされる『パラプレーヴェーシカー』は、南インドでは、ナーガーナダの『スヴァルーパプラカーシカー』として伝承されている。

このように、カシュミールと南インドの伝統において、著者の伝承に関して混乱が見られる中で、トリカに哲学的神学的基盤を提供した再認識派の神学体系は、どのような形で南インドに伝承され、そして受容されたのであろうか。このような問題は、中世以降のシヴァ教神学の展開や南インドのシヴァ教文化という観点からも興味深い問題であるにも拘わらず、十分に明らかにされているとは言い難い。その背景には、アビナヴァグプタの『主宰神の再認識反省的考察』(以下『反省的考察』) に対する作者不詳の註釈『主宰神の再認識反省的考察注』(以下『反省的考察注』) のように、南インドで著された多くの註釈文献が未出版であり、また『パラートリーシカーラグヴリッティ』のように出版されていても、刊本の信頼性に大きな問題を抱えていることがある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、未出版註釈文献『反省的考察注』などの南インドで著されたシヴァ教再認識派の註釈文献を精査することを通じて、南インドの学匠が、どのような知的背景を有し、どのようにシヴァ教再認識派の神学体系を受容したのかを明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 未出版註釈文献『反省的考察注』の文献学的研究

『反省的考察注』には、以下の写本がある

C 写本 : a manuscript in the collection of Manaveda Arjuna Raja, Pudukovikakam, Calicut.

M 写本 : R4353, Government Oriental Manuscript Library, Madras, 522ff. Devanagari, paper, complete.

P 写本 : T. No. 762, Institut Français de Pondichéry. 403ff. Devanagari, paper, complete.

T 写本 : No. 131, Oriental Research Institute and Manuscript Library, Trivandrum, 179ff. Malayalam, Palm-leaf, Incomplete.

この内、カリカットの C 写本のみ所在不明である。C 写本がどのような文字で書かれていたか不明であるが、1923 年から 1924 年にかけて、デーヴァナーガリーに転写された。それがマドラスの M 写本である。M 写本を、1969 年にそのまま書写したものがボンディチェリの P 写本である。トリヴァンドラムの T 写本は、『反省的考察』認識章第五日課第 9 偈までしかカバーしていないが、M 写本などの欠落箇所を埋めるものであり、明らかに系統を異にする写本である。これまでに利用されてこなかった T 写本を使用することで、より正確な校訂テキストの作成が可能になる。

(2) 引用文献の網羅的調査

『反省的考察注』には、カシュミールで著された文献の他にも南インドにおいてのみ伝承されている文献からの豊富な引用が見られる。それらを網羅的に抽出し、引用元を調査することによって、著者の文献的背景やどの程度カシュミールの文献について情報を持っているのかを明らかにする。『反省的考察注』以外の註釈文献についても、同様に、引用文献を精査する。

(3) 南インドシヴァ教文献群の電子テキストの作成

引用文献群の網羅的調査を行うために、『反省的考察注』に引用される文献や南インドの学匠マドゥラージャの著作などの電子テキストを作成する。公開されている電子テキストもあるが、入力ミスが多いため校正の必要がある。

再認識派文献に対する註釈として、写本カタログによれば、南インドには『反省的考察注』の

他に、ナーガーナンダとサダーナンダによる二つの註釈がある。また『反省的考察注』に引用される『パラートリーシカーラグヴリッティ』には、マドゥラージャの後継者クリシュナダーサの註釈がある。その内容についてほとんど知られていないこれらの註釈についても電子テキストを作成する。

(4) 写本の蒐集および写本伝承調査

『反省的考察注』に引用される文献の内、従来クシェーマラージャに帰せられていた『パラブラーヴェーシカー』の写本伝承を検討する。『パラブラーヴェーシカー』については、南インドの写本と比較し、テキスト改変があるか否かを調査する。著者について疑念があるこの著作の写本伝承を調査することによって、カシュミールと南インドのシヴァ教文献の伝承実態を明らかにし、著者問題を解決する手掛かりとする。

本研究が視野に入れるシヴァ教写本の中には、未入手のものや現地でのみ閲覧可能なものもあるため、引き続き写本蒐集および現地での写本調査を行う。

(5) 南インドの再認識派理解の解明

以上、(1)から(4)までの作業を通じて、総合的に、南インドの学匠がどのような形でカシュミールのシヴァ教神学文献を受容し、解釈していたのか、そしてどのような知的背景を有していたのかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 『反省的考察注』の文献学的研究

校訂テキスト作成に向けて、M写本、P写本、T写本の校合を完了した。それらをもとに、校訂テキストの作成に取り組んだ。T写本に関しては、フォリオ途中に文脈上不自然な挿入が見られる箇所があり、T写本に先行する写本にすでに混同が起っていたと考えられる箇所も確認された。三写本の校合は終えているものの、テキスト校訂と翻訳研究については、全体の半分ほどに留まっている。翻訳研究を作成しているが、引用箇所に関して、『反省的考察注』作者の理解と引用原典のテキストおよび原意の理解を精査する必要が残っている。

(2) 引用文献の網羅的調査

『反省的考察注』には、カシュミールで著された多くの著作群が引用されているが、『反省的考察注』作者が、ウトパラデーヴァの『主宰神の再認識詳注』を知っていたとは考えにくい。ウトパラデーヴァの『主宰神の再認識詳注』の断片を引用しているが、その引用を『精神的認識主体の確立』からの引用と理解しているからである。また『反省的考察注』作者がウトパラデーヴァの著作からの引用とみなす場合は、ウトパラデーヴァの著作に確認されない。アピナヴァグブタの著作に比べて、ウトパラデーヴァの著作群は十分に伝承されているとは言えない。

また同著作には、『パリアンタパンチャーシカー』や『パラートリンシカー・ラグヴリッティ』など南インドでのみ流布していた著作群からの引用も多く見られる。南インドの未出版の著作群の一部の電子データを作成したことにより、典拠不明であった引用を同定することができた。その中に、マドゥラージャの著作からの引用も含まれる。マドゥラージャの著作として言及されていた『スークティマラー』からの引用は、『グルナータパラマルシャ』と『スヴァートマパラマルシャ』に同定された。

一方、『アンヴァヤディーピカー』の著者は、『シャーストラパラマルシャ』を誤ってクシェーマラージャの著作として言及し、アピナヴァグブタの讃歌をサハジャーナンダの偈として理解している。また再認識派文献に関して、カシュミールの伝統的な呼称とは異なる形で言及しており、その理解も正確とは言い難い。『アンヴァヤディーピカー』は、しばしば『反省的考察』を引用し、さらにそれを註釈している箇所も見られ、『アンヴァヤディーピカー』の著者の手元には、『反省的考察』だけがあったと考えられる。

『反省的考察注』や『アンヴァヤディーピカー』に引用される文献群は概ね共通しており、現存する写本資料からも、カシュミールから南インドへ伝承された文献群の大枠が明らかになった。

(3) 南インドシヴァ教文献群の電子テキストの作成

マドゥラージャの上述の著作に加えて、『シャーストラパラマルシャ』などの電子テキストをコーチン写本(No. 1223)をもとに作成した。この写本は、マドラスのGovernment Oriental Manuscripts Libraryに所蔵されている転写本のオリジナルである。

『反省的考察注』にしばしば引用される『パラートリーシカー・ラグヴリッティ』に対するクリシュナダーサの註釈についても電子テキストを作成した。他に『主宰神の再認識偈』に対する註釈『アンヴァヤディーピカー』や、ナーガーナンダの『スヴァルーパブラカーシカー』に対する二註釈、すなわちチダーナンダによる註釈と17世紀頃のカルナータカで著されたハリハラシャルマンによる註釈の電子テキストを作成した。

これらの電子テキストに関しては、研究協力者の石村克氏とともに作成している。

(4) 写本の蒐集および写本伝承調査

先に言及していたナーガーナンダとサダーナンダによる再認識派文献に対する二註釈に関する誤りが訂正された。マドラスの Adyar Library の旧カタログ上では『主宰神の再認識偈』に対する註釈として記録されていたナーガーナンダの註釈は、実際には、『パラプレーヴェーシカー』であった。マイソールの Oriental Research Institute に所蔵される『アンヴァヤディーピカー』は、サダーナンダではなく、ナーターナンダの著作であった。

『パラプレーヴェーシカー』に関して、カシュミールシリーズの刊本に附される脚注は、南インドで著された二註釈と一致しないことから、カシュミールで挿入されたものと考えられる。カシュミールの写本の中には、コロフォンに、クシェーマラージャの著作として言及するものもある点には注意が必要である。

『反省的考察注』に対する註釈が新たに確認された。『反省的考察注』写本と同じく、トリヴァンドラムの Oriental Research Institute and Manuscripts Library に所蔵されるこの註釈の写本 (No. T382) は、マラヤラム文字からデーヴァナーガリーに転写されたものと考えられるが、オリジナルの写本は未確認である。この註釈は、帰敬偈も著作意図などを示唆する言葉などもなく、またわずかに『主宰神の再認識偈』の帰敬偈に対する註釈の途中で終わる写本であることもあり、著者や著された背景については不明である。

ウトパラデーヴァの『主宰神の再認識詳注』の写本 (No. 4591) がウツジャインの Scindia Oriental Research Institute に所蔵されていたことが明らかになった。これまでに報告されてきたような欄外註から回収されるものではなく、独立した写本である点で特筆に値する。当該写本が含む『主宰神の再認識詳注』は、欄外註に発見されていた箇所 (1.8.10-2.3.8) に一致することから、新たな断片を提供するものではないとしても、『主宰神の再認識詳注』が確かに写本を通じても伝承されていたことを示している。

(5) 南インドの再認識派理解の解明

『反省的考察注』が、『パラートリンシカー』に対する一種の註釈として『主宰神の再認識偈』をみなし、トリカの伝統のもとで著されたと考えられるのに対して、『アンヴァヤディーピカー』は、ヴィーラシャイヴァの学匠スヴァブラバーナンダの依頼によって、ブラフマン一元論とシヴァ一元論を統合するために著されたものである。また『反省的考察注』が著された時代や場所に関して不明であるのに対して、『アンヴァヤディーピカー』は 16 世紀頃にカルナータカで著されたと考えられる。さらに、『アンヴァヤディーピカー』に見られるブラフマンに関する理解は、シヴァ教再認識派のそれとは異なっている。『反省的考察注』と『アンヴァヤディーピカー』が著された背景は大きく異なっており、再認識派の神学体系が、広く利用されていた状況が明らかになった。

現状では、これら二註釈は相互に関係しているとは言い難く、両者の相対年代を確定するには至っていない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Yohei Kawajiri	4. 巻 2
2. 論文標題 A Report on the Newly Found Manuscript of the Isvarapratyabhijnnavivrti	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 'Verita e beleeza' Essays in Honour of Raffaele Torella	6. 最初と最後の頁 751-772
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 70.2
2. 論文標題 南インドにおける再認識派文献の受容について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1019-1013
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 73
2. 論文標題 シヴァ教再認識派文献の新出写本について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 69.2
2. 論文標題 Isvarapratyabhijnnavayadipikaについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 958 - 952
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 68.2
2. 論文標題 作者不詳の註釈Ivarapratyabhi jnavimarsinivyakhyaについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1070-1065
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Yohei Kawajiri
2. 発表標題 On the Ivarapratyabhi jnavayadipika
3. 学会等名 18th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 シヴァ教文献の南インドへの展開と受容について
3. 学会等名 広島哲学会 第73回学術発表大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 南インドにおける再認識派文献の受容について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 シヴァ教再認識派文献の新出写本について
3. 学会等名 広島哲学会 第72回学術発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 Isvrapratyabhi jnanvayadipikalについて
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 作者不詳の註釈Isvrapratyabhi jnavimarsinivyakhyaについて
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石村 克 (Ishimura Suguru)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------